

令和1年6月3日

## 京口門だより No. 68

今年は季節に合った気候とならず、異常に暑かったり涼しかったりととまどいますが、平野では水をはった田に植えたばかりの苗が風に揺れています。

「みちのくの田植は寒し旅衣」(山口青邨)

最近のニュースで思春期の子供たちに、起立性調節障害という病気で困っている人が多いと伝えられました。この病気は朝が起きづらい、立ちくらみ、体がだるい、動悸や頭痛といった症状のために、日常活動が低下し、学校へ行けない、引きこもりなどという状態を起こしてきます。過去には思春期の一時的な現象のように思われていましたが、重くなると日常生活が損なわれ、それこそ引きこもりのようなことになりかねません。

明らかな原因は見い出せないのですが、自律神経の失調やストレスが背景にあって、メマイや動悸、体のだるさなどが起こるのだろうと考えられています。

漢方医学の上から見ると、朝起きづらい、体がだるい、メマイや動悸がするなどの症状は、一種の水毒症状と見ることができます。現代医学のほうでは水分の摂取不足を原因にあげていますが、まったく逆で体に水分が多いためにこのような症状を起こしてくるのだと思います。実際にある男子学生でしたが、この起立性調節障害で、朝起きれない、学校も行けない子がいました。漢方薬の水毒を治す薬をしばらく飲みつづけて元気に通学できるようになった人がいました。ただ水毒状態だけでこのような起立性調節障害が起こるとは言いきれません。女子では月経不順や月経困難症と関係していることがあり、月経が始まると一層朝起きにくく、だるく、立ちくらみが強いという状態になります。漢方では瘀血(血の滞り)の症状とみなして、瘀血を除く薬を処方します。これも実際に、普段から起立性調節障害があつて、月経前後になると症状が強くなるという女子高校生に、瘀血をのぞく漢方薬を飲んで元気がなった方がいます。

現代医学ではこの起立性調節障害に対する効果的な治療法がないとされていて、長くこの病気で困っている若者がいます。この京口門だよりでも何回か申し上げていますが、そのような時にこそ漢方治療を受けてみて欲しいと思います。自律神経失調などというあいまいな診断でなく、漢方的にその原因を見つけて治療することができます。

